



1 気象概況（8月後半：果樹研究所）

8月4～6半旬の平均気温は、4半旬が27.6℃で平年より2.8℃高く、5半旬が24.3℃で平年より0.5℃低く、6半旬が24.3℃で平年より0.1℃低い状況でした。この期間の降水量は14.0mmで平年の16.5%でした。

2 土壌の水分状況（9月2日現在）

果樹研究所における土壌水分（pF値：無かん水・草生栽培りんご園）は、深さ20cmが2.9、40cmが2.2、60cmが2.4で、深さ20cmは乾燥状態、40cmと60cmは適湿状態となっています。

3 生育状況（果樹研究所）

(1) もも

ア 収穫期と果実品質

「まだか」の収穫盛りは8月18日で平年より5日遅い状況でした。果実は339gと平年より大きく、糖度は13.1で平年より低い状況でした。

「川中島白桃」の収穫始めは8月23日で平年より2日早い状況でした。

「ゆうぞら」の収穫始めは8月29日で平年より3日早い状況でした。

(2) なし

ア 果実肥大（9月2日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「豊水」は縦径が74.6mmで平年比102%、横径が88.2mmで平年比105%と、平年よりやや大きい状況です。また、満開後日数による比較でも平年よりやや大きい状況です。

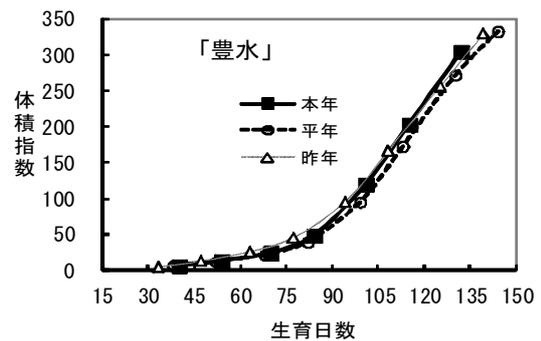


図1 なしの果実肥大（満開後日数比較）

イ 「幸水」の成熟状況

収穫始めは8月23日で平年より4日早い状況でした。

満開100日（8月5日）～満開125日（8月30日）にかけての果実成熟調査結果では、果実硬度は平年よりやや低く推移しましたが、8月下旬には概ね平年並になりました。糖度も平年より低く推移しましたが、収穫最盛期にはほぼ平年並になりました。

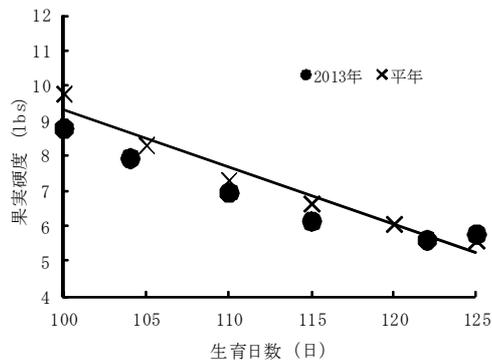


図2 生育日数と硬度の関係

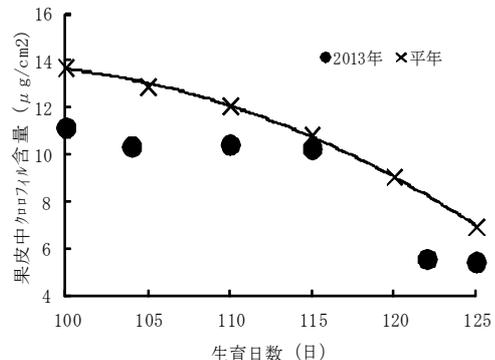


図3 生育日数と果皮中クロロフィルの関係

ウ 「豊水」の成熟経過（満開後130日現在）

8月30日における成熟調査の結果では、果実硬度が5.9ポンドでほぼ平年並、果皮中クロロフィル含量は7.2 $\mu\text{g}/\text{cm}^2$ で平年と比較してやや高い状況でした。糖度は11.3で平年より低い状況でした。

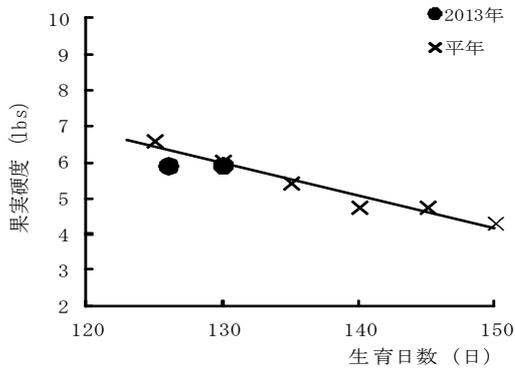


図4 生育日数と硬度の関係

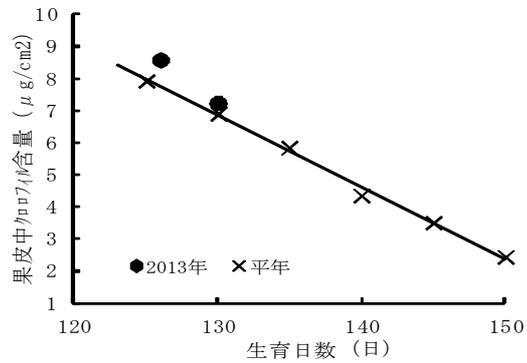


図5 生育日数と果皮中クロロフィルの関係

(3) りんご

ア 果実肥大（9月2日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「ふじ」は縦径が71.1mmで平年比100%、横径が78.8mmで平年比101%と平年並の状況です。

また、満開後日数による比較では、平年よりやや大きい状況です。

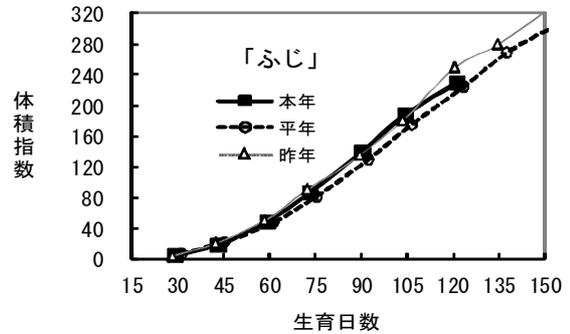


図6 りんごの果実肥大（満開後日数比較）

イ 「つがる」の収穫期と果実品質

「つがる」の収穫始めは8月26日で平年より2日早く、収穫盛りは8月27日で平年より8日早い状況でした。

8月20日頃の降雨以降、硬度の低下やデンプンの消失が進行し成熟が急速に進み、生育日数は平年より短くなりました。

果実品質は、一果重が265gと小さく、糖度は14.1と高く、果肉硬度は11.9ポンドでやや低い状況でした。

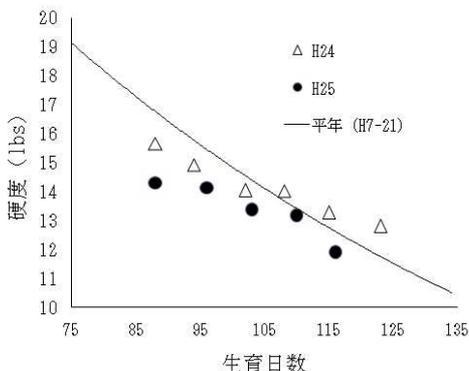


図7 「つがる」の果肉硬度の推移

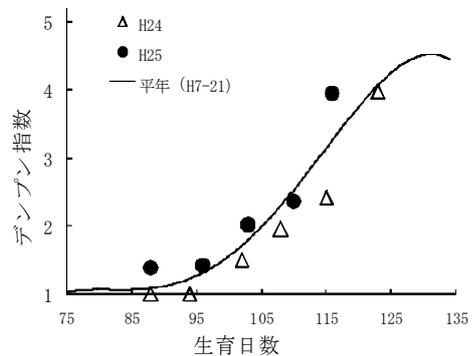


図8 「つがる」のデンプン指数の推移

※指数1（未消失）～指数5（ほぼ消失）

(4) ぶどう

ア 「巨峰」（無核栽培）の成熟状況

8月27日（満開後78日）現在の無核栽培「巨峰」（長梢せん定）の成熟状況は、糖度が15.7、果皮色が8.5でした。また、酒石酸含量は0.78%、糖酸比は20.5となっており、酸含量

の低下が遅い傾向となっています。収穫開始は9月2半旬頃の見込みです。

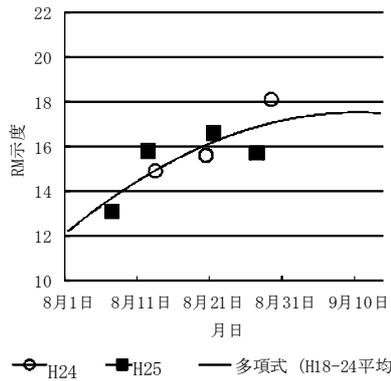


図9 「巨峰」(無核栽培)の糖度の推移

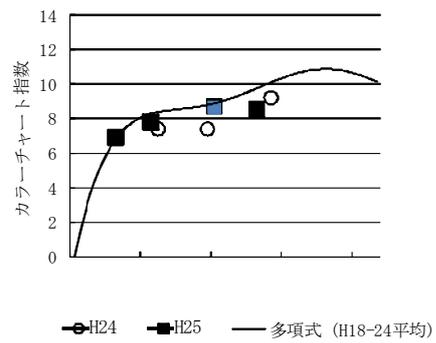


図10 「巨峰」(無核栽培)の果皮色の推移

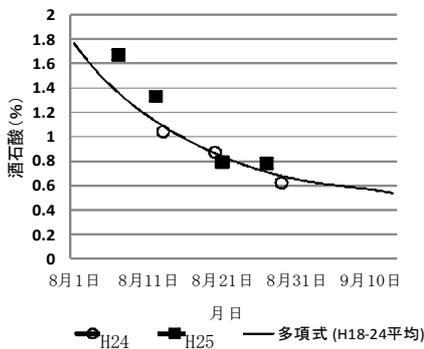


図11 「巨峰」(無核栽培)の酒石酸含量の推移

4 栽培上の留意点

(1) もも

ア 秋肥の施用

収穫後、9月のできるだけ早い時期に秋肥を実施し、樹勢の回復につとめましょう。秋肥は尿素など速効性肥料を用い、窒素成分で7kg/10a程度(あかつき：中肥沃度地帯の場合)を目安としてください。

表1 モモの施肥基準

地帯区分	品種	目標収量(kg/10a)	施肥量(kg/10a)					
			N				P ₂ O ₅	K ₂ O
			秋肥	冬肥	春肥	追肥		
肥沃度中	日川白鳳・暁星	2,400	5	5	2	—	10	12
	あかつき	2,600	7	5~7	2	—	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	6~8	2	—	10	12
肥沃度高	日川白鳳・暁星	2,400	5	5	—	—	10	12
	あかつき	2,600	7	5	—	—	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	6	—	—	10	12
流亡程度大	日川白鳳・暁星	2,400	5	—	4	2	10	12
	あかつき	2,600	7	—	4	2	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	—	4	2	10	12
腐植質火山灰土	日川白鳳・暁星	2,400	7	5	—	—	10	12
	あかつき	2,600	7	5	—	—	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	6	—	—	10	12

注：土壌表面は部分草生、秋肥は9月、冬肥は11~12月、春肥は2~3月、追肥は6月。

イ 秋季せん定

若木などで樹勢が強く、徒長枝の発生が多い樹では、9月中旬頃（徒長枝が太る前）に秋季せん定を実施し、樹勢の安定化を図りましょう。

(2) なし

ア 施肥

「幸水」の収穫終了後、9月中旬頃を目安に礼肥を施用しましょう。礼肥は尿素など速効性の肥料を用い、窒素成分で4～5 kg/10 aを目安としてください。

その他の品種（「豊水」「二十世紀」等）でも、収穫が半分以上終了すれば果実品質への影響は少ないので、できる限り早く礼肥を施用しましょう。

イ 落果防止剤の散布

「二十世紀」等、落果防止剤の散布が必要な品種では、農薬の使用基準を遵守するとともに、他の品種への飛散等に十分注意して散布しましょう。

(3) りんご

ア 中生種の収穫前管理

各品種の生育状況に合わせ、摘葉や玉回し等の着色管理を遅れないように実施しましょう。気温が高い日が続く場合は、日焼け果の発生が懸念されるため、最初は果実に直接付いている葉を中心に軽めの摘葉を行い、その後気温の状況に応じて程度を強めて実施しましょう。

イ 落果防止剤の散布

中生種の「ジョナゴールド」等、落果防止剤の散布が必要な品種では、農薬の使用基準を遵守するとともに、他の品種への飛散等に十分注意して散布しましょう。

(4) ぶどう

ア 「巨峰」の収穫における留意点

(ア) 収穫適期の把握

収穫時期は、気象条件や園地条件によって異なります。また、樹勢や着果量、房の大きさ等によっても異なるため、収穫は果皮色や食味を確認し、適期収穫を心がけましょう。

(イ) 収穫時の注意点

- 雨の日やその直後の果実は糖度が低く、日持ちも悪い傾向があります。できるだけ収穫前の2～3日が晴天で、収穫当日も晴れている日に収穫を行いましょう。
- 収穫は、日持ちを向上させるため、果実温度の低い早朝などに行いましょう。
- 主枝の先端や日当たりが良く登熟が進んだ枝の果実は成熟が早い傾向にあるので、これらの果実から収穫しましょう。
- 果粉を落とさないために、収穫果実は穂軸を持ち、果粒には直接さわらないように注意しましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア りんご褐斑病

昨年、本病の発生が多かった園や、既に発生が認められる園では、9月上旬の防除を徹底しましょう。

イ ももせん孔細菌病

中通り北部での発生量は平年よりやや多く（病虫害防除所による8月30日付、病虫害発生予察情報）、秋期感染が多くなるおそれがあります。翌春の春型枝病斑の発生は、9月中～下旬に降水量が多いと多くなる傾向にあるため、収穫が終了したほ場から直ちに秋季防除を徹底し、越冬病原菌密度の低下を図りましょう。

秋季防除は、9月上旬～10月上旬に2回以上散布しましょう。

ウ なし黒星病

浜通りの発生量は平年よりやや多い状況となっています（8月30日付、病虫害発生予察情報）。今後、冷涼多雨な気候になると翌年の伝染源となる芽への感染が増加するため、秋季防除を徹底しましょう。本病の発生が見られる園では、棚上の枝葉にも十分薬剤がかかるように、丁寧な散布を心がけましょう。

(2) 虫 害

ア ナシヒメシンクイ

第3世代以降はなし果実への寄生が増加します。例年、なしの中晩生種で果実被害が多い地域では、9月1半旬頃までに防除を実施しましょう。

また、シンクイムシ類の被害果を発見したら摘除し、水づけ等により適切に処分しましょう。

イ リンゴコカクモンハマキ

第2世代の防除適期は、平年並の9月2半旬頃と予想されます。ももで密度が高い場合は収穫後も防除を実施しましょう。

ウ モモハモグリガ

第6世代の防除適期は、9月3半旬頃になると推定されます。園地の状況を確認し、密度が高い園では越冬密度を低下させるために収穫後も防除を実施しましょう。

エ カイガラムシ類

クワコナカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は、平年並の9月上旬頃と予想されます。合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用した園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意しましょう。

越冬雌成虫の誘殺を目的としたバンド処理は9月中旬頃までに行いましょう。

表2 果樹研究所におけるモモハモグリガ防除時期の推定
(平成25年9月3日)

今後の気温予測	第5世代成虫盛期	第6世代防除適期
2℃高い	9月7日	9月11日
平年並み	9月8日	9月12日
2℃低い	9月9日	9月14日

注) 演算方法は三角法による、起算日は8月18日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：http://www.cns.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=22752#gi_jyutsu_jyouchou

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>